

令和6年度「ひがし文活」事業案について

1 ひがし文活（ひがし文化発信活動グループ）事業目的

次世代を担う子どもたちをはじめとする区民が身近に芸術・文化に触れる機会を創出し、区内の文化意識の向上及び文化活動の促進を図ることを以て、区民が文化及びその素養となる教育の大切さを認識し、心豊かで住みやすいまちづくりに活かすことを目的とする。

2 子ども絵画展示事業（令和4年度、5年度実施）の振り返り

- 子どもたちの絵画を公共の場に展示したことは、事業目的に照らし意義はあった
- 展示スペースが限られており、展示期間も限られることから、面的広がりを欠く
- ただ展示するだけでは、評価や反響を得ることが難しい
- 持続的・発展的な取り組みにしていくためには、区民との協働を深化させる必要がある

3 令和6年度事業（事務局試案・4案を作成）

(1) 小学生絵画の地域展示

小学校に協力を依頼し、地域の催し（防災訓練など）にあわせて絵画を展示

展示絵画の中から地域住民が選んだものを「ひがしふれあい文化祭」に出展することで、絵画への注目度を高めるとともに、展示をきっかけとした教育機関と地域との交流を創出する

(2) こども写生大会～夏休みこども企画～

芸術に触れる機会を醸成するとともに、参加者同士の交流を創出する

完成した絵画は地域の協力を得て各所で展示

(3) 地域まるごと・こども美術館

地域の子どもたちの創作物（絵画や書、詩歌、写真、造形物など）を地域全体で展示

展示スペースを貸与いただける施設（公共施設・店舗・集会施設など）を開拓

展示をきっかけとして、教育機関と地域との交流を創出する

(4) まちの未来を語らいながら絵を描こう～夏休みこども企画～

ひがし文活メンバーと子どもたちで集まり、まちの未来について語らいながら絵画を制作することで、地域コミュニティの一員としての意識を醸成する教育と交流の機会を創出する

絵画テーマは「東区の未来」などを想定 完成後は「ひがしふれあい文化祭」等で展示

⇒これまで以上に地域に根差した取り組みとなるため、東区政策会議構成員をはじめとする地域の皆様と区役所の協働によって実現をめざす